読書感想文コンクール　小学校4･5･6年生の部

入選

石川　鼓乃（いしかわ　この）みなみ野君田小 6 年生

作品名：全世界に恵まれた生活を

図書：トットちゃんとトットちゃんたち

　私は「トットちゃんとトットちゃんたち」を読んで、貧しい国の子どもは学校に行けないという事、病院に行っても治りょうをしてもらえないという事を知りました。私は学校に通う事ができ、病院に行っても治りょうをしてもらえます。同じ世界に生きているのに関わらず、私と違う事だらけでした。
　私が一番おどろいた事はタンザニアでは、十五キロ先まで井戸をくみに行かなければ水を得る事はできないという事です。日本ではじゃ口をひねればきれいな水が出ます。近くのコンビニや自動販売機でも簡単に飲み物を手に入れる事ができます。でもタンザニアでは、十五キロ先まで歩いても、泥が入った水しか手に入れることができず、食べ物も、きれいな水も手に入れる事が難しいのです。私はとても衝撃を受けました。私は、今までムダ使いした水や残した食べ物を少しでも分けてあげたいと思いました。また、アフリカでは、年間約四百四十万人の子どもが死んでしまっています。病院といっても固いベットが置かれているだけで、治る見込みがない人は床に放置されてしまうのです。日本だったらこのような事はありません。ルワンダでも日本ではありえない事が起きています。それは、子供の目の前で両親を殺すという事です。そして、子供は一人になってしまうのです。そのため、精神が不安定で狂暴になったりするそうです。黒柳さんはきれいな水や食べ物、医薬品と同じくらい愛情が必要だと言いました。私もその通りだと思いました。そんな中でもお母さんではない人からの愛情で元気に育つことができている赤ちゃんもいる事を知りました。七、八才の女の子が赤ちゃんをお世話するのです。兄弟でもないのに･･･。本当ならその子がお母さんの愛情をもらう年なのに、赤ちゃんのお世話をしていたのでお世話せざるを得ない大変な状況なのだと思いました。私は今までこのような国の事を知らず、日本での生活が当たり前だと思っていました。なので、この残酷な現実をたくさんの人に知ってもらわなくてはいけないと思いました。この本を書いた黒柳さんは、厳しい生活をしている国の現実を見て、ただ悲しむだけで

はなく、日本にその現実を伝える事に力を入れました。そして、ユニセフ親善大使として活動をし、多くの募金を集めました。さらに栄養失調や、病気で貧しい人々をはげます活動も行いました。私はただ悲しむだけでなく、自分ができる事を実行した黒柳さんはすばらしいと思いました。

今、自分ができる事は、水や食料をむだにしない事、厳しい現実を忘れない事だと思いました。そして、アフリカなど貧しい地域が早く平和になり、安心して生活できるよう、ユニセフ募金などの活動をしたくさんの人の命が救われ、貧しい国が豊かになる事を願います。